

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営 (3F)</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに事業所理念を掲げて共有し、実践につなげています。	事業所内各フロアの事務所に地域密着型としての理念を掲示し、朝礼時にも確認しています。職員全員に周知がされ、ケアの実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加はしているが、日常的には散歩時の挨拶、周辺のゴミ拾いを行っている。	地域のだんじり祭り等を通して、地域との繋がりがありません。町会長においては災害時の緊急連絡先にもなって頂き、連携を深めています。	さらなる地域交流の為に、1階の共用空間を認知症カフェ等、地域交流スペースとして有効活用してみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問や電話での相談を実施している。また、運営推進会議での相談も承っている。ホーム見学や相談も積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回ホームの運営報告を行い、参加者の皆様からご意見を頂きサービス向上に生かしている。	2ヶ月に1度の開催でホームの活動報告を行い、また出席者から外出行事の行き先の提案があったりと意見交換が行われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	特に生活介護課、地域福祉課とは密に連絡を取り合い、生活保護者の状況の報告等行っています。	日頃から何かあれば役所に行き、連携が取れるように努めています。生活保護等の相談にも乗ってもらっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束について研修を行っています。エレベーターに関しては施錠していますが希望に応じて、職員が付き添って各フロアへ行ってもらっています。	利用者の安全確保のための施錠はしておらず、利用者の行動に合わせ散歩に出かけるなどで対応しています。身体拘束や虐待防止に関する研修や勉強会をとおし、職員全員が認識を持ったうえでケアに取り組んでいます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の施設内研修を行っています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の施設内研修を行っています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取り説明を行い、疑問等があれば丁寧に説明しています。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は必ず家族様との会話の時間を設け、家族の要望や現在の利用者様の状況を話している。	利用者の声には常に耳を傾け、家族に対しても面会時に積極的に声をかけ、何でも話せる関係づくりをしています。面会のない家族に対しても3ヶ月に1度は電話をし、意見交換を行いケアの実践に反映しています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月一回の職員会議で意見を出し合い、全員で検討している。また、随時、管理者が個別に意見を伺い、運営に反映させている。	毎月職員会議を開催し、業務の見直し、行事や物品購入等の意見や提案を出しあう機会が設けられています。また、管理者も、日常的に職員の要望やケアに対する意見を聴き取り、運営に反映させています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、年末に必ず個別面接を行い、本人の状態や職場環境についてヒアリングしている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の研修を行っている。また、施設外研修（認知症介護基礎研修、認知症ケア大会、メンタルヘルス研修）に必ず受講してもらっている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に一度、西区グループホームの管理者が集まる連絡会議に参加、定期的に連絡を取り合っている。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、十分な面談の機会を設け、担当のケアマネも同席し、本人・家族に不安なことや要望などを伺っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、十分な面談・面会の機会を設け、本人・家族に不安なことや要望などを伺っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の面談の際に、本当に必要なサービスを考え、他のサービスを含めた相談を行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側とせず、一人の人間として寄り添い、出来る事、出来ない事を見極め、介護しています。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族様の要望を伺いつつ、家族で出来ること、職員で出来ることを、ともに考え、できないことをお手伝いすることをやっている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族様だけでなく友人の面会にも気軽に応じるようにしている。また、面会時間を決めておらず、いつでも訪問していただけるようにしている。	家族や知人の方の来園、だんじり等地域行事等への積極的な参加で、馴染みの方と関わられるよう努めています。また、近隣のスーパー等馴染みの場所への外出支援も行っています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や外出の機会を設け、利用者様同士が交流できる環境作りを工夫している。時に職員も会話に入り、関係作りを支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に「いつでも来てください」とお伝えしており、相談があれば対応するようにしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人様・家族様のご意見を取り入れ、今までと同じ暮らしができるような環境作りと介護をしています。</p>	<p>日頃から利用者1人1人との関わりを大切にし、普段の話の中から思いや意向の把握に努め、家族とも相談し、その人らしく生活が送れるよう支援されています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居後も生活環境や性格などを伺い、本人のこれまでの人生を細かく把握するように努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>各利用者に担当職員を付け、日常生活の癖や好きなこと、昔の暮らし等を伺い、本人の細かな所を把握するようにしています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各利用者に担当職員を付け、日常生活の癖や好きなこと、昔の暮らし等を伺い、本人の細かな所を把握するようにしています。</p>	<p>担当職員が毎月モニタリングを実施し、本人及び家族に思いを聞き、それをもとに職員間で意見交換を行い介護計画に反映させています。また随時状態の変化にあわせて見直しも行っています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>各利用者ごとに、ケアの記録を残し、また、ケアプランに基づいたモニタリングを残し、日々の介護や今後の介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>既存の介護にとられず、常に新しい支援やサービスを検討し、その時の本人の状態に応じた介護に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>個別に利用されている地域資源を把握し、家族と共に、今までと同じように地域資源を活用できるよう努めている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の要望により、かかりつけ医を決めさせてもらっています。	安心できるホームの医師に常に診察して頂き、訪問看護も利用しています。又、希望のかかりつけ医がある場合には送迎等も支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週に1回の個別往診、週に1回の訪問看護により、利用者の健康状態を逐次報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の介護サマリーの提供、入院中の相談員との情報交換、家族との相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、本人・家族と共に、まずは重度化・終末期の方針について伺います。また、入所中においても、話し合いを行うようにしています。	ホーム内で看取りの勉強会を行い、本人・家族と話し合いを重ねて、職員も家族のようにチームで温かく終末期に寄り添っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度の救急救命の研修を行っています。また、事故発生時ごとに、状況に応じた応急手当について勉強会を実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の緊急連絡網を作成し、万が一の時には職員が駆け付けられるようにしています。	ホームで年2回の防災訓練を行っています。職員同士の連絡方法にも工夫がされています。また、災害時の備蓄やカセットコンロ等の物品もしっかり準備しています。	大災害時に備え、地域との連携を深める為に、地域の消防防災訓練に参加してみたいかがでしょうか。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊厳を守るよう、常に人生の大先輩ということ胸に置いた接遇を心がけています。	時時や状態に応じた言葉使いを常に意識し、接遇などの研修や啓発等も積極的に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会のおやつメニューや行事食の選定、外出先等は、利用者にしてもらっています。可能な限り、自己決定できる場を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに合わせたスケジュールで介護を行っています。本人の希望を伺って支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装を自分で決めてもらったり、散髪なども本人の希望する髪型に整えてもらっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり巻き、盛り付け、野菜むき、味見、下膳、皿洗いなど、本人ができることを手伝っていただき、食事を作る段階から楽しくおいしく召し上がっていただく工夫をしています。	一人一人にあった形態の食事を栄養バランスも考え、ホーム内で調理をし提供しています。又、楽しそうに利用者も調理を手伝っています。	現在、職員は持参の弁当を食べているが、共通の話題を持ち、楽しく食事が摂れるよう、一緒に調理した食事を食べてみてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量、水分量は常に確認し、きちんと摂取できていない場合は支援を行います。また、極端に食事量等が低下した場合は主治医に連絡し、栄養摂取できるように支援します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回から4回の歯科往診により、歯科医師から口腔ケアの指導をいただき、各利用者に応じた口腔支援を行っています。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	24時間の排泄チェック表を用いて本人の排泄パターンを把握し、適切な排泄誘導を実施しています。	ほとんどの方が排泄の支援を受けています。一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや支援方法等、全てに配慮した介助を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間の排泄チェック表を用いて本人の便秘動向を確認しています。薬だけに頼らず、適切な食物繊維、発酵食品の摂取、毎日の運動により、便秘解消に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2階, 3階での入浴の場所、午前、午後と現在の体制で出来る範囲での個々に応じた入浴支援は行っているが、24時間好きな時間までは現状困難である。。	週2回の入浴を行っています。又、重度化した場合も姉妹園の機械浴を利用し清潔保持が出来るよう心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣に応じて休息や就寝・起床を支援させていただいています。眠りにくい方にはリビングでお話を聞いたり、飲み物などを提供することでリラックスして頂ける環境を工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、薬の変更などがあっても、都度、用法容量を確認、理解しています。薬の変更による症状の変化については、都度往診時に医師に報告。相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴、趣味、嗜好を活かした日常の役割や楽しみを提供しています。始終同じフロアにいるのではなく、他フロアやバルコニー、近所の公園に散歩等、実施しています。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に一度程度、本人の希望を伺い、買い物に出かけます。また、年に一度、家族の協力も得ながら、個別外出により、普段は行けない場所に出かけています。	近くのスーパーに買い物に出掛けたり、気分転換にホームのまわりを散歩したりしています。又、毎月外出行事の企画もしています。秋にはだんじり祭りを地域の方々と楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する利用者がおらず未実施である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在、希望者がおらず未実施である。年に一度、年賀状を書いていただくことがあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い空間ではあるが、皆様に快適に過ごしていただけるよう、利用者の希望を伺いながら、レイアウトや席を決めています。	ベランダは施錠せず開放され、自然な風や光が心地よく感じます。調理の音や香りも楽しめ、居室とリビングを自由に行き来し、マイペースに過ごせる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	バルコニーや玄関前、1階フロア等にベンチやソファを設置し、利用者同士だけでなく、家族や友人と気兼ねなく過ごせる空間を提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾付、写真等を自宅から持参していただき、居心地がよく、かつ安全な空間作りに努めています。	落ち着いた畳の間で、使い慣れた家具や思い出の写真等を持ち込んでいます。利用者が安心して過ごせるよう、安全面にも一人一人配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることが増えるような環境作りに努めています。また、個別に安全な環境作りをするため、居室内の危険な箇所は解消する工夫を取り入れています。		



V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	②	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	②	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	②	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	③	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない